

インクルーシブ教育実践校について よくあるご質問

インクルーシブ教育実践推進校について

1 **Q 特別支援学校や、クリエイティブスクール、通級の高校とはどのような点が異なるのですか？**

A 神奈川県HP「新しい学びのかたちから高校をさがす」より抜粋

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/dc4/tokushoku/hsw/keyword.html#creative>

	特徴
インクルーシブ教育実践推進校	知的障がいのある生徒が高校教育を受ける機会を広げながら、全ての生徒が共に学び相互に理解を深める教育に取り組む学校です。
クリエイティブスクール	一人ひとりが持っている力を必ずしも十分に発揮できなかった生徒に対して、これまで以上に学習意欲を高める取組を行う学校です。
通級による指導導入校	発達障がい等のある生徒が、大半の時間は通常の学級で学びながら、必要に応じて別の教室で障がいに応じた特別の指導（自立活動）を受ける「通級による指導」に取り組む学校です。
特別支援学校分教室	特別支援学校で県立高等学校内に教室が設置されています。特別支援学校への就学基準に達したさまざまな障がいのある生徒のうち、自力通学が可能で、集団活動中心の学習が可能な生徒を対象として、個別教育計画を作成し個別のニーズに応じた教育を行います。

詳細は、神奈川県のインクルーシブ課HP、神奈川県教育委員会HPをご覧ください。

学校生活について

2 **Q 学校生活では、生徒をどのように支援していますか。**

A 特別募集で入学した生徒には、一人ひとりに個別教育計画を立て、授業、学校生活全般について支援を行っています。本校では、教員が情報共有し、担任や学年の教員、教科担当教員、インクルーシブ教育推進グループの担当教員を中心として、チームで丁寧に対応できる支援体制づくりに取り組んでいます。一人ひとりに必要な支援はさまざまです。年に数回ある三者面談などをおして、生徒・保護者と教員で相談してより良い高校生活を送れるよう支援します。

3 **Q 日常的に使用できる特別教室はありますか？**

A 各学年に1つ、リソースルームを設けています。リソースルームは主に特別募集で入学した生徒が使います。「キャリアデザイン」の授業で使うほか、ほっとしたいときや、離れて一人でいたいとき、気持ちを落ち着かせたいとき、先生に相談したいとき、勉強を教えてほしいとき、お昼を食べるときなど、特別募集で入学した生徒は自由に使えます。

4 **Q 学校やクラスになじめますか？**

A 本校では、インクルーシブ教育実践推進校として、すべての生徒が充実した高校生活を送れるよう、すべての生徒に相互理解教育を行っています。日常の学校生活の中で、生徒同士の相互理解を深めることができる環境づくりに加え、インクルーシブな学校づくりや共生社会について考え、より深く学ぶことのできる教育活動を行っています。その際に、次の3点をポイントとしています。

1. 個性を尊重し、一人ひとりの違いを認識できるような内容
2. 集団の中で、互いを理解しながら、社会性や思いやりの心を育むことができるような内容
3. 他者との協働により物事を解決する力を育むことができるような内容

令和2年度以降に実施した特別募集で本校へ入学した生徒のアンケートでは、「クラスの居心地が良い」と答えています。また、特別募集で入学した生徒の多くは部活動に入部し、部活動や委員会活動で学校行事にも貢献しています。

学習について

5 Q 学習面では生徒をどのように支援していますか？

A 一斉授業では、ティーム・ティーチング(TT)を取り入れるなど、授業内で個別の支援を行っています。令和4年度は、国語、数学、芸術、外国語の一部の授業、情報、キャリアデザインでTTの授業を実施しています。また、課外での補習等を行うこともあります。ただし、本来の授業と別内容の授業を別室などで個別に行うことはしていません。生徒・保護者と相談し、個別の学習目標をたて、その目標の達成に向けた指導・支援を行います。

6 Q どの程度の学力が必要ですか？

A 特に基準はありません。生徒一人ひとりの状態は幅広くさまざまです。高等教育を受けたいという強い意志と、全日制普通科高校である川崎北高校で、40人程度の学級の一員として学びたいという意欲を持って入学し、卒業後の進路目標に向けて積極的に取り組んでほしいと思います。

7 Q 授業の進度についていくのが難しいとき、取り出して別室で教えてくれたり、先生がマンツーマンで教えてくれますか。授業は、一般募集の生徒と内容や課題を分けていますか。

A 本校では、すべての生徒が共に学び理解しあうインクルーシブ教育として、同じ教室で、同じ内容を共に学んでいます。別内容の授業や別室での授業は行っていません。すべての生徒が理解し、楽しく学習できるようユニバーサルデザインの視点で授業を行っています。また、授業内で学習到達度別に課題を選択したり、授業目標を選択し、一人ひとりの学習目標に沿った指導を行います。

定期試験等について

8 Q テストでは、どのような配慮をしてもらえますか。

A テストの内容は、すべて統一しています。個別の問題や問題数の変更などの、テストの内容に関する個別の対応は原則として行っていません。インクルーシブ教育実践推進校として、テストの内容にもユニバーサルデザインの視点を取り入れ、全生徒に配慮して作成しています。内容について個別の対応はしていませんが、個別の対応で配慮した例は次の4点です。

①ルビ振り、②マークシートの番号を塗りつぶさず✓で回答、③10分のテスト時間延長、④別室受験

進路について

9 Q 卒業生の進路先にはどのような例がありますか？

A 実践推進校パイロット校(3校)の卒業生の進路は、進学、職業訓練機関、就職、福祉サービスとさまざまです。本校では、生徒の希望を叶えるため、3年間をとおしてキャリアデザインの授業を中心に、丁寧に進路指導・支援を進めています。

10 Q 「キャリアデザイン」では、どのような学習をするのですか？

A 本校では、すべての生徒が進路学習を行っています。それに加えて「キャリアデザイン」という、「キャリア教育に関する学校設定科目」を設定しています。「キャリアデザイン」では、社会に出るために必要な知識を得たり、見学や体験等を積み重ねたりしながら自己理解を深め、自分に合った進路実現ができるような取組を行っています。特別募集で入学した生徒のみなさんには、この科目の学習に積極的に取り組んでほしいと考えています。